

育成モノづくり人材

Vol. 72

広島県立総合技術高校

広島県立総合技術高校は2005年開校で歴史は新しい。朝倉一隆校長は「広島県内で唯一、工業科、商業科、家庭科を併設している専門高校」と話すように、複数の学科を抱え傘下に電子機械科や現代ビジネス科といった専門学科を置く。各分野のスペシャリストを



朝倉校長

家庭科を併設している専門高校」と話すように、複数の学科を抱え傘下に電子機械科や現代ビジネス科といった専門学科を置く。各分野のスペシャリストを業総合実習」として、

【DATA】▷校長=朝倉一隆氏▷所在地=広島県三原市▷学科構成=電子機械科、情報技術科、環境設備科、現代ビジネス科、人間福祉科、食デザイン科▷生徒数=661人▷主要設備=フライス盤、数値制御(NC)旋盤、模擬店舗施設、介護実習装置、厨房施設など▷主な進路=三菱重工印刷紙工機械、マツダ、中国電力、ホテルグランヴィア広島など

校外のイベントにも出店するなど地域貢献を果たす。こうした取り組みの根底には「相手を思いやる気持ち、礼

技術と商売学ぶ模擬会社

育成する教育に取り組む。1年生はまず「ミックスホームルーム」と呼ぶ、学科に関係なく集まり授業を受け、基礎学力を高める。他学科の生徒とも交流することにより、「多様な

学年の全生徒が1人1人、商業科は販売促進や宣伝を担当する。高校が掲げる教育目標は「心を鍛え、技術を磨き、地域社会に貢献する」。生徒が役割分担して運営する校内の企業に就職しても、会社に地元の人材を招いた即売会や、



本格的な厨房を備えた調理教室

に寄与できる人づくりを進め、食デザイン科は高校在学中に調理師免許の取得を目指し、食全般に貢献する人材を育てる。校内には高格な厨房を備えた調理教室を2室構える。

朝倉校長は「3分野の学科が持つ強み、特色を生かして生徒が力を合わせてモノづくりに向き合えるように、質の高い授業と実習を提供していきたい」と意気込む。

(福山支局長・林武志)
(金曜日に掲載)

を育てる。情報技術科はハード、ソフトの両面でITに精通した人材育成を狙う。環境設計に携わる商業人材を育成。家庭科の人間福祉科は介護・医療分野